

「一帯一学」へ

共に歩まん

令和3年3月5日発行
14号
長野県中信教育事務所

学校教育課長 ごあいさつ

中信教育事務所の窓辺に2鉢のシクラメンが置かれています。昨年の4月から3月の今日まで、途切れることなく花を咲かせ続けています。シクラメンは年越しは難しいと聞いていましたので、夏の暑さにも冬の寒さにも負けず花を咲かせ続ける姿から、私たちも「負けていけない」と元気をもらい続けました。

各小中学校では、本年度は新型コロナウイルス対応により、臨時休校に始まり、行事の変更、3密を避けた授業など不自由な思いを強いられることの連続だったことと思います。そんな中、訪問させていただいた学校では、どの教室でも子どもの笑顔の花が咲いていました。その理由を先生方に伺うと、不自由な状況の中でも子どもの学びを止めたくない、子ども主体の授業を実現したいという教職員の強い思いがあり、それが教材や授業展開等を工夫することにより、子どもたちに届いていたからだと教えられました。

本年度の教育事務所の事業は予定通り実施できないことが多くあり、申し訳ありませんでした。そんな中、実施できた事業が先生方の活力に、そして子どもの笑顔に少しでもつながっていれば、こんなうれしいことはありません。一方、十分支援ができなかった点は真摯に受け止め、改善し来年度につなげていきます。来年度も学校と「共に歩まん」です。

学校教育課長 會田義昭



最終号（14号）目次

- 学校教育課會田課長ごあいさつ
- コロナ禍においても「主体的・対話的で深い学び」へ向かう工夫【道徳科】
- 学校教育課 本年度の振り返りと来年度に向けて
- 生涯学習課 本年度の振り返りと来年度に向けて
- 自らの歩みを振り返り、その先へ
- コロナ禍における取組を来年度の研究推進へ活かす
- 信州型UD推進校 大町南小学校
の取組を紹介します
- 〈付録〉
- 総合的な学習の時間 特別活動 全体計画
先生方のギモンに動画でお応えします！



コロナ禍においても 「主体的・対話的で深い学び」へ向かう工夫

道徳科

追求の過程(例)

導入

問題意識をもつ

本時追求する道徳的価値に関わる子どもが抱く「問い」を、子ども自らが確かめられるようにしています。

主体的な学びへの工夫

工夫:コロナ禍においても変わらない
私たち教師の道徳科授業での構え



問題意識をもつ、つまり子どもが学ぶ必要感をもつということは、主体的な学びのスタートだよ！対象との出会いの場で、先生方はどんな工夫をしているかな？

本時のねらいに関わる教師の働きかけに、身を乗り出し、考えようとする子ども
授業開始直後は、子どもの追求へのわくわく感が高まる時、黄金の時間

展開

教材で考える

子どもが教材を読んで率直に感じたことを表せるようにしています。また、子どもが他者の思いを聴きたくなる場の設定を大切にしています。例えば...



教材を提示する工夫
(ペーパーサート)

表現活動の工夫
(役割演技)

板書を生かす工夫
(ネームプレートや付箋)

話合いの工夫
(座席配置, ホワイトボード)

※ COVID-19感染予防に努めつつ、対話を促すための場を、各校で先生方が知恵を出し合い、位置付けていました。

展開

自分事で考える

本時追求する道徳的価値が、自分の中でどうあるかを考えられるようにするために「私」を主語に思いを表せるよう努めています。



答えが一つではない道徳的な課題を自分の問題と捉え、向き合う、そんな姿は「主体的」に学ぶ姿といえるのではないかな。

自分事として考えれば考えるほど、筆が進められなくなる子ども
自分の生き方と真剣に向き合う子どもの姿

終末

納得解を導く

まとめようとは考えていません。子どもが今、何を思考しているかを見守り、聴くようにしています。



道徳科の授業の終わりが、よりよい生き方の追求の終わりではないよ。道徳科の授業での追求が終わってからの、本当の追求の始まりだよ！

本時学び得たことを表現する子ども、それに傾聴する子どもと先生

授業を終えて

よりよい生き方のさらなる追求へ

令和2年度 学校教育課 本年度の振り返りと来年度に向けて

中信教育事務所学校教育課 令和2年度 グランドデザインより

私たちはカリキュラム・マネジメントの側面を踏まえて支援をします

- 実践をつなぐ情報発信
- 目指す姿に向かう教職員研修
- 学びを創る学校訪問支援

情報発信

◇事務所だより「共に歩まん」の充実

- ・新学習指導要領に対応し、日々変わる状況の中で先生方が今必要とする情報を、精選して発信
- ・本年度は14号発行
- ・事務所HPへの掲載

一人一台端末が届く日を見据えて「タブレット貸与式」を計画・実施してみませんか

学校行事 新たな儀式的行事の工夫

【タブレット貸与式 式次第】(例)

- 1 はじめの言葉
- 2 タブレット貸与に当たって
- 3 タブレット貸与
- 4 タブレットを使つての目標発表
- 5 終わりの言葉

密を避け、短時間で実施

【ねらい】

- ◎タブレットが自分の手元に届くまでに、多くの方々の努力があることを実感できるようにしたい。
- ◎貸与式後、手元に届いたタブレットをどのように使用していきたいかを考える場を位置づけ、自分の学習目標を明確にしたい。
- ◎「貸与」なので「返却」があることをイメージさせたい。

教職員研修

◇ニーズに応じた教職員研修

- ・研究推進講座は、各地区や学校のニーズに対応するため、地区ごとに適宜開催。全体では2月にオンラインで開催
- ・授業力アップ講座は、6, 8, 11, 2月に、電話相談やZoomでのオンライン研修を実施



学校訪問支援

◇先生方の実践のよさを共有して、目指す授業づくりを応援する学校訪問支援

- ・各校の「目指す子どもの姿を具現したい」「子どもたちにこんな資質・能力を育みたい」という願いの共有
- ・子どもの「わかった、できた、またやりたい」を引き出す授業づくり



情報発信

- コロナ禍で日々変わる状況の中で、コロナ禍における主体的・対話的で深い学びへの取組の工夫、学校での感染対策の工夫の事例、一人一台端末の活用例など、先生方が今必要としているであろう内容を課内で検討し、その都度タイムリーに発信した。
- 先生方が手に取って読みたくなる紙面を目指し、内容、文字数を絞り込み、写真やイラストを多く入れ、視覚に訴える紙面を目指した。

教職員研修

- 「授業力アップ講座」の参加者のべ49名。参加者アンケート満足度（満足・やや満足）100%。
- 参加した先生方の授業力向上を支援した。
- 研究推進講座では、地教委や校長会と連携し、各地区の課題に寄り添った研究推進の後押しをした。
- 第1回は電話・Zoom相談、2～4回はオンライン研修。教科担当主事が対応することで、継続的な支援につながった。

学校訪問支援

- 学校訪問支援アンケートから
 - ・自校の願いや課題に合った支援内容であった。はい 96.2%
 - ・自校の研究の「よさ」や新たな「課題」を明確にする支援内容であった。はい 92.9%
 - ・「学校で願う子ども像」の具現をめざした学校づくり・授業づくりへの意識が高まった。はい 92.4%
- 学習評価や自律的に学ぶ家庭学習、ICT活用等、先生方の要望に応じて、学校訪問支援の中で先生方と考え合ったり、情報提供をしたりしてきた。

本年度の主な成果

来年度の主な方向

- ・さらに先生方が活用できる紙面づくりを目指す。
- ・フォーム等を用いて、アンケートを実施しながら、先生方の声を活かした情報を発信していく。

- ・研究推進講座では、各地区を基本に開催し、研究主任の先生方が校内のPDCAを構築できるよう支援する。
- ・今後も参加者のニーズを把握して、授業づくりを支援する。

- ・コロナ禍において、全校研究会が減り、部会や教科会の研究会が増えた。研究主任の先生等が明確に方向性をイメージし、継続して研究推進ができるよう、具体的・効果的に支援する。



地域とともにある学校づくり～コミュニティスクール～

本年度も、多くの地域・学校で、取組の充実に向けて推進していただきました。

- ①学校と地域、双方向の関係構築による「共育」 ②地域ぐるみで故郷を学び、故郷の未来をつくる



- ③コロナ禍を地域と学校が連携・協働して乗り切る



今後について

- ・地域学校協働活動の活性化を目指し情報提供等支援
 - ・国CS移行を考える市町村教育委員会・学校への支援
- ～来年度も、信州型CS推進出張講座等、
学校と地域の研修の場に御活用ください～

地域と学校をつなぎ、地域ぐるみの学び合いを

◇人権教育実践カススキルアップ講座

- ☆まずは自分が「自分事として体験的に学ぶ」
- ☆地域や学校で「実践に生かしていける」
- ☆地域と学校の担当者どうしが
「お互いにつながり合い連携・協働に向かう」

以上のことを大切に、来年度も現地研修や地域の人権素材を扱った研修など、様々な内容を考えて参ります。
多くの先生方の御参加をお待ちしています。



(貞享義民記念館にて)

人権教育を行う際にも、真実を正しく知り、そこからどうしていくかを大切にしています。そのため、今日の講義も多くの資料を基に大切なことや視点について教えていただき、とてもありがたかったです。
(「貞享義民記念館」地域の歴史素材や先人の生き方から学ぶ人権教育 受講者された先生の感想より)

体育・スポーツ活動の充実をめざして

- ・楽しめるニュースポーツをやりたいんだけど、どんなものがあるか体験してみたなあ...
- ・パラスポーツを授業で扱いたいんだけど、どうやったらいいんだろう...
- ・『休日部活動の地域移行』って、どうなっていくのか知りたいなあ...

こんな御要望
ありませんか？

先生方の御要望に応じて対応します。お気軽の御連絡ください。

◇中学生期のスポーツ活動の支援

少子化による合同部活動、
合同チームの編成や休日
部活動の地域移行につい
てなど学校、地域の実状に
応じたスポーツ環境づくり
について一緒に考えさせて
いただきます！



◇出張講座「教職員のためのスキルアップ講座」

放課後の数十分や長期休業を活用して！
「誰でも楽しめるスポーツの紹介」や
「明日の授業に生かせる教材研究」など
希望に応じて柔軟に対応します。
職員研修や学年会等で御活用ください！



自らの歩みを振り返り，その先へ

～初任者研修 プログレス研修が行われました～

1月26日，2月2日に，2年目および初任の先生方を対象としたプログレス研修が，Web会議システムにて行われました。研修では，それぞれが作成したレポートをもとに，学級経営や教科指導等の実践について，小グループでの発表や意見交換を行いました。

2年目の先生方の感想から

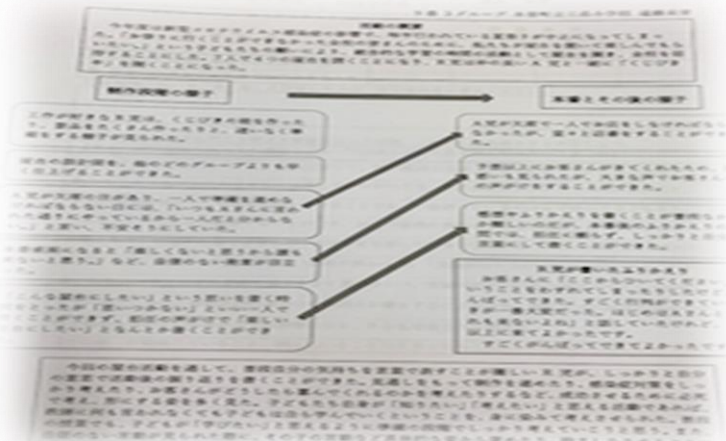


初任の先生方の感想から

- 子供に寄り添った支援について振り返り，よりよいものにしようとする姿勢がとても刺激になりました。自分自身の課題も見えてきました。
- 自分の取り組みも認められたようで，また頑張ろうという気持ちになりました。
- 「コロナだから」とあきらめるのではなく，「コロナだからこそ」と新たな可能性を広げていきたい。

- 発表から先生方の実践を知り，もっといろいろなことを試していきたいと感じました。
- 失敗から学び成長していく経験を聞いて，前向きで素敵だと思いました。
- 仲間がそれぞれの場所で志高く頑張っていると思うと，とても心強い存在だと思いました。

先生方は，自己の歩みを振り返り，次年度に向けての見通しや自己課題をもつことができたよ。ネットワークを介した研修会だったけれど，お互いに認め合ったり，励まし合ったりして，人と人がつながる温かさを感じることができたんだね。



【初任者のレポートより】

コロナ禍における取組を来年度の研究推進へ活かす

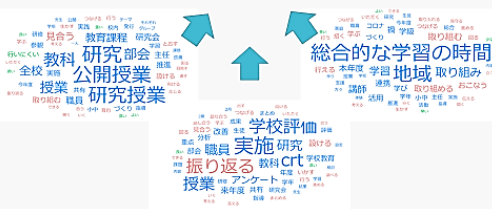
～研究推進講座が行われました～

2月5日（金）に，研究推進講座（Zoom）を行いました。カリキュラム・マネジメントの3つの側面から，一年間の各校の研究推進について情報交換を行いました。

事前に各校のコロナ禍における取組の工夫を整理したよ

コロナ禍における取組の工夫を活かし
グランドデザインの「目指す子どもの姿」へ

目指す子どもの姿



Zoomの画面共有機能を使って，オンラインで研究通信を読み合うグループもあったよ

研修Ⅰ（講義）
カリキュラム・マネジメントの3つの側面から取組を振り返る

研修Ⅱ（グループ討議）
「来年度の研究推進に向けて」～各校のグランドデザインをもとに～

参加した先生方から

新しい学習指導要領，評価方法に向け，校内，教科会でよく話し合い，情報を共有しなければいけないと思いました。校内で足並みをそろえることで，子どもたちも分かりやすくなると思いました。他の学校での実践の様子がとても参考になりました。

「対話的な学びや主体的な学びがどのようなものなのか」「それを達成するための手立てになりそうなものは何か」を職員で共有する時間を年度当初に設け，学校全体として研究を進めていく体制づくりができればと思います。

目指す子どもの姿，評価，学びを達成するための手立てとは…。先生方との「共有」が研究推進のキーワードになりそうだね！

信州型UD推進校 大町南小学校の 取組を紹介します

今年度からUD推進校となった大町南小学校では、「集団の中で安心して学ぶ土台づくり」から授業改善に取り組んできました。2学期からは「環境を整えること」に加えて「授業づくり」にも力を入れました。



一人ひとりが安心して自分らしく学ぶことのできる授業を目指して取り組んでいます

大切にしたい視点や先生方の工夫の具体例をUD通信で共有



先生方お疲れ様です。職員会で提案させていただいた通り、子どもたちの「活動できる」ための工夫をこのUD通信を通してお伝えしていけたらと思います。（中略）「クラス全体が安心して過ごせる環境」をクラスの実態に合わせて作って

最初は大変かもしれませんが、子どもたちの困り感、先生方の困り感が減ります。無理せず、ご自分のやれることから「挑戦しよう！」の精神でい

第一弾は「**ルールの明確化**」についてです。学校生活のあらゆる場面で「ルール」がありますね。例えば、発表するときのルール、掃除の手順、学級目標等々のルールや耳からの情報だけでは、困ってしまう子もいます。

そこで、ルールを明確にすることによって、トラブルを回避し、子どもが安心して過ごせるように、具体的には清水先生、お願いします！

子どもたちが授業に安心して「参加する」「活動できる」ための工夫を、このUD通信を通してお伝えしていけたらと思います。（中略）「**クラス全体が安心して過ごせる環境**」をクラスの実態に合わせて作っていただけたらと思います。（中略）第一弾は、**ルールの明確化**についてです…

UD通信 第1号より



UD通信

第1号
ルールの
明確化

第2号
刺激量の
調整

第3号
場の
構造化

第4号
時間の
構造化

各号のテーマに合わせて、UD加配の先生が実践紹介をしているよ。校内の教室環境の紹介を読み合うことで先生方がつながるきっかけになりそうだね。

1 学期
安心して
学ぶ土台
づくり

2 学期
自分らしく
学ぶ授業
づくり

その子らしい学びを大切にした授業づくりを支援

通級指導教室の担任の先生と時間割を調整して、週に2時間、一緒に各教室を参観して、授業づくりについて先生方と共に考えているよ。

聞き取り



A君は、ノートを取らないんですよ。

参観

ここは大切だ！と思ったところは自分から書こうとしていたよ。



「大事なポイントだけ書ければいいよ」と言われたら安心して授業に参加できるかも。



懇談



書いていなくても、見て、聞いて、学ぼうとしていたんですね。Aくんが輝く授業を考えてみます。



大槻先生は、さらに全校の先生方との情報共有を進めたいと考えているよ。3学期は、担任の先生との懇談を職員室で行ったり、子どもの姿をどうとらえてきたのかを報告する会を開いたりして、**先生方をつなぐ工夫**をしているよ！